

日本OR学会賞

2020年度学会賞のうち、業績賞・普及賞・実施賞について、表彰委員会で選考のうえ、理事会にて以下のとおり承認されました。

各賞は2021年3月2日の春季学会賞表彰式にて授与されました。

第22回 業績賞

● 木村俊一 氏（北海道大学）

[選考理由]

木村俊一氏は、待ち行列理論とオプション価格評価理論における理論解析が困難とされる問題に現れる確率モデルの研究・開発に一貫して従事し、先駆的かつ世界的に多大な影響を与えた研究業績を数多く挙げている。待ち行列理論においては、一般サービス複数窓口待ち行列の特性量に対する体系的な近似解法を提案し、その発端となった定常状態における平均待ち時間に関する研究は1992年に第20回文献賞を受賞している。これら一連の研究は、現在のクラウドコンピューティングや電気自動車充電ステーションの設計などの多様な問題に適用され、極めて普遍性の高い研究成果を発信してきている。オプション価格評価理論においても、やはり理論解析が困難なアメリカンオプション価格評価問題の研究に従事し、統一的解法の構築によって理論の実務の有用性を高めている。また、木村俊一氏はオペレーションズ・リサーチの教育・普及および学会への顕著な貢献に対して2018年に第43回普及賞を受賞され、その後も学会代表理事・副会長を務めており、研究・普及・実施を通じて本学会に大きく貢献している点を評価した。

第46回 普及賞

● 高橋豊 氏（京都情報大学院大学・京都大学名誉教授）

[選考理由]

高橋豊氏は、オペレーションズ・リサーチの中でも特に情報通信や待ち行列分野において、長きにわたって精力的に国際活動を行うことにより、この分野の普及に尽力してきた。情報処理国際連合（IFIP）Technical Committee 6においては、Working Group 6.3通信システムの性能評価グループの創設に携わり、その後10年間あまりこのグループの共同議長を務めてきた。こうしたIFIPにおける長年の貢献に対して、2001年にIFIP Silver Core Awardを受賞している。また、2006年には国際会議Asia-Pacific Symposium on Queueing Theory and Network Applicationsを共同創設し、さらに2009年には、同会議をグローバルなもの（International Conference ……）にされ、略称：QTNAとして、現在も継続している。本学会においては、幹事（2015, 2016年度）、春季シンポジウム実行委員長（2008年）、待ち行列研究部会主査（2010, 2011年度）を務め、2001年にはフェローを授与されている。以上のように、高橋豊氏が情報通信や待ち行列分野の国際的な普及活動に大きく貢献している点を評価した。

● 山下英明 氏（東京都立大学）

[選考理由]

山下英明氏は、生産システムの確率モデルや待ち行列理論に関する研究に長く従事している。さらに、こうした自身の専門分野に留まらず、広くオペレーションズ・リサーチの普及に積極的に取り組んでいる。本学会においては、庶務理事（2003, 2004年度）、待ち行列研究部会主査（2004, 2005年度）、編集理事（2007, 2008年度機関誌編集委員長、2012, 2013年度論文誌編集委員長）、副会長（2015, 2016年度）などの要職を歴任し、さまざま

まな方面からORの発展に貢献している。本学会創立60周年記念事業においては、準備委員会および実行委員会委員長としてさまざまな事業・企画を先頭に立って進めるとともに、2017年春季研究発表会（創立60周年記念大会）の大会実行委員長として、400人以上の参加者を沖縄に集め、記念大会を成功に導いたことは記憶に新しい。また、専門知識の啓蒙に関しても、事典やハンドブックなどへの分担執筆や機関誌特集記事への執筆を通して継続的に活動を行っている。こうした山下英明氏の精力的かつ継続的なORの普及活動への貢献を評価した。

第45回 実施賞

・該当なし

〔2020年度表彰委員〕

松井知己（委員長・東京工業大学）、三好直人（副委員長・東京工業大学）、鈴木勉（筑波大学）、土谷隆（政策研究大学院大学）、塩浦昭義（東京工業大学）、枇々木規雄（慶應義塾大学）、矢島安敏（オリックス（株））、高橋由泰（（株）日立製作所）、繁野麻衣子（筑波大学）、田村明久（慶應義塾大学）